



平取町立図書館

本年 2025 年 4 月 18 日に配信した「終わりになき図書館ジャーニー vol.21」日高町編に平取町(びらとり)町を通過したと書きました。日高町は平取町を挟んだ飛び地自治体だったからです。

平取町をいつ書こうか日高町を書き上げた後、すぐに着手しませんでした。このコラムに登場する町の順番はとても気まぐれ。時期もバラバラ。地域を集中して連載したくないこと。イメージがすぐ整理できて1日で書き上げる町もあれば、整理できず1週間ぐらい抱える町もあります。

札幌から高速バス「ペガサス号」富川で下車。平取方面の路線バスに乗り換えます。「平取」停留所で下車。札幌から2時間半ほどです。下車すると目の前に建つ「ふれあいセンターびらとり」という複合施設の3階に図書館があります。

日高町編を書いた時は JR で占冠まで向かい、日高町営バスに乗って日高ターミナルで下車。路線バスに乗り換えて平取に向かっています。このルートで平取へ向かう人はなかなかいないようで、平取の方も驚いていました。

人口は 4500 人ほど。町の 82%は山林なので生活できる地域は限られています。そして日高管内で唯一海のない町。日高町からえりも町まで日高管内の町は太平洋に面しています。

平取町は古くからアイヌ文化が育まれ、現代に継承されてきました。現在、アイヌ文化を次世代に引き継いでいくために、コタンコロカムイ(シマフクロウ)が棲む森を目指し、森づくりに取り組んでいるそうです。

図書館の地域資料にはもちろんアイヌに関する資料も充実しているのですが、2つ注目したコーナーがありました。

「源義経の本」コーナー。町内には義経神社と義経資料館もあります。なぜ源義経と平取町なのか？

由来について諸説ありますが、江戸時代後期の探検家近藤重蔵が蝦夷地調査の際にアイヌ神・オキクルミと結びついた義経信仰があるのを知り、江戸に戻ってから自分に似た義経像を彫らせて、翌年、再び蝦夷地調査に向かう途中、オキクルミの言い伝えがある平取のハヨピラに義経像を安置し、祠を建てたのが始まりとされています。ちなみにハヨピラとは、オキクルミカムイの伝承が残る由緒ある土地として、地域の人々に語り継がれている崖をさしています。

もう一つは「イザベラ・バード日本奥地紀行」というコーナーです。

イザベラ・バードはイギリス出身。病弱だった彼女は転地療養と称して多くの外国を旅しました。1878(明治 11)年 47 歳の時に日本を訪れ、函館、森、室蘭、白老を経て、佐留太(さるふと)、現在の日高町富川から内陸の平取に向かいます。『日本奥地紀行』イザベラ・バード著(平凡社刊)に当時の状況が丁寧に書かれています。

平取町の持つコンテンツも豊富。トマトの生産は道内トップクラス！びらとり和牛も美味しい。二風谷(にぶたに)という地域では石材店を何軒も見かけました。調べてみるとこれまた奥が深い。

そして日高編の時にも書きましたが、公共バスの車内放送がアイヌ語と日本語のバイリンガルだったのは今も印象的で耳に心地よく残っています。

2025 年 3 月訪問
加藤 重男